KADOKAWA　角川書店

2014 年 4 月 17 日

株式会社 KADOKAWA 角川書店 ブランドカンパニー
第1編集局 横溝正史ミステリ大賞事務局
（当日）榊原大祐・森亜矢子・村岡香保里・佐々木愛
（4 月 18 日以降）足立雄一・中村僚
〒102-8078 東京都千代田区富士見 1-8-19
TEL 03-3238-8555 FAX 03-3262-7646

第 34 回 横溝正史ミステリ大賞選考結果のお知らせ

本日4月17日（木）、第34回横溝正史ミステリ大賞（主催＝株式会社KADOKAWA 角川書店）の選考会が行われ、選考委員の審査により、下記のように決定いたしました。

【第 34 回 横溝正史ミステリ大賞】（金田一耕助像、賞金 400 万円）

『神様のもう一つの顔』 藤崎翔（ふじさき・しょう）

（茨城県牛久市出身）

第 34 回より選考委員がかわりました。
選考委員（五十音順）：

有栖川有栖

恩田 陸

黒川博行

道尾秀介

横溝正史ミステリ大賞は 400 字詰め原稿用紙 350 枚～800 枚の作品を対象とし、今回応募された 182 作品の中から最も優れた作品に与えられます。選考会は本日 4 月 17 日（木）、午後 6 時よりニューオータニ なだ万にて開かれました。受賞作の梗概、受賞者の略歴は別紙のとおりです。（年齢は応募時）

贈呈式は、2014 年 11 月 28 日（金）午後 5 時 30 分より、祝賀会は午後 6 時より、いずれも東京會舘にて開催します。

受賞作は 2014 年 9 月末に、角川書店より単行本として刊行の予定です。

■横溝正史ミステリ大賞公式サイト　http://www.kadokawa.co.jp/contest/yokomizo/

＜横溝正史ミステリ大賞梗概＞

『神様のもう一つの顔』　藤崎翔

その日、坪井誠造（享年六十八）の通夜がしめやかに執り行われていた。彼は生前、中学校教師として校長まで勤め上げ、定年後は自宅の敷地でアパート経営をする一方、不登校や貧困家庭の子供のために活動するNPOにも参加しており、その人柄は多くの人に慕われていた。弔問客が大勢詰めかける中、坪井誠造との思い出を、娘の坪井晴美・友美姉妹、元教え子の斎木直光、元同僚教師の根岸義法、隣人の香村広子、元教え子で現在はアパートの住人でもある鮎川茉希、同じくアパートの住人の寺島悠は思い返していた。その中には、故人の素晴らしい人柄を思い出しながら、「まるで神様のようだった」と感じている者すらいた。

しかし、彼らの記憶を横断的に覗いてみると、坪井誠造のもう一つの顔が見えてくる。斎木の中学時代の同級生の自殺、根岸の息子が瀕死となったバイク事故、香村の夫の転落死、鮎川のストーカー被害など、彼らの周りで起きた事件や事故に、ことごとく坪井誠造が関与しているようなのだ。もっとも、彼ら自身はまだそのことに気付いていない。

やがて通夜が閉会し、通夜ぶるまいが開かれる。その会場で、寺島が何気なく発した一言がきっかけで、鮎川、斎木、根岸、香村は、互いにほとんど面識がないにもかかわらず、集まって話をすることに。そのうちに彼らは、坪井誠造が生前、様々な凶悪事件を起こしていたのではないかということに気付いてしまう。そこに、坪井晴美・友美姉妹が現れ、彼らが交わすショッキングな内容の会話を立ち聞きしてしまう。「他の弔問客に聞かれたらまずいから」と、控室に移動する一同。しかし寺島だけ、突然便意を催しトイレに駆け込む。

控室にて、父の殺人疑惑について参列者たちから改めて聞く晴美と友美。実は、晴美にも心当たりがあった。かつて小学校教師だった晴美は、担任したクラスが学級崩壊を起こし、退職に追い込まれていた。その原因となった問題児が、何者かに殴られて瀕死の重傷を負っていたのだ。晴美はその事件の犯人も父だったのかもしれないと告白する。さらに、根岸の教え子が死亡した水難事故にも、坪井誠造が関与した疑惑が発覚する。

しかし、トイレから戻った寺島が何気なく発した一言をきっかけに、それぞれの事実が違った顔を見せると、連鎖的に他の事件にも違った真実が浮かび上がり始め……。

＜著者略歴＞

藤崎翔（ふじさき・しょう）　※本名

1985年10月9日生まれ、28歳、男性。茨城県牛久市出身。東京都杉並区在住。高校卒業後、6年間お笑い芸人として活動。現在はアルバイト。